



*Study in English
at Japanese Universities*

Global30 Project Follow-up FY 2012

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度 フォローアップ

〔構想責任者〕

勝 悦 子 副学長(国際交流担当)

明 治 大 学

目次

1. 本事業の成果(目標の達成状況)

- ①特筆すべき成果と波及効果 p.3
- ②英語コースの学生からの評価 p.4
- ③留学生の受入 p.7
- ④海外大学との連携プログラムの新たな実施 p.8
- ⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大 p.9
 - ・協定の締結数
 - ・協定等に基づく学生の受入派遣
- ⑥教育体制の充実 p.11
 - ・外国人教員の雇用
 - ・日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

2. 取組状況

- ①英語による授業のみで学位が取得できるコース p.13
 - ・英語コースの開設状況
 - ・質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

- ②留学生受入のための環境整備 p.15
 - ・留学生に対する支援(就学, 生活, 経済, 就職等)
 - ・日本語・日本文化の学習機会の提供
 - ・海外拠点の設置と留学生の受入促進
- ③拠点大学の国際化とネットワーク形成 p.18
 - ・大学全体としての国際化戦略
 - ・大学間ネットワークの形成と産業界との連携
 - ・事務体制の国際化
 - ・評価の実施・改善

3. 経費(補助金)の使用状況 p.23

- ①予算額の推移と使用実績
- ②内部監査等の実施

4. 今後の課題と事業終了後の見通し p.24

- ①今後の課題と展望
- ②事業終了後(2014～)の見通し

1. 本事業の成果（目標の達成状況）

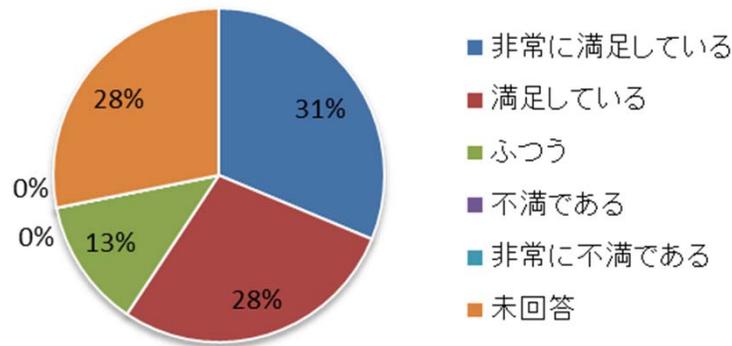


① 特筆すべき成果と波及効果

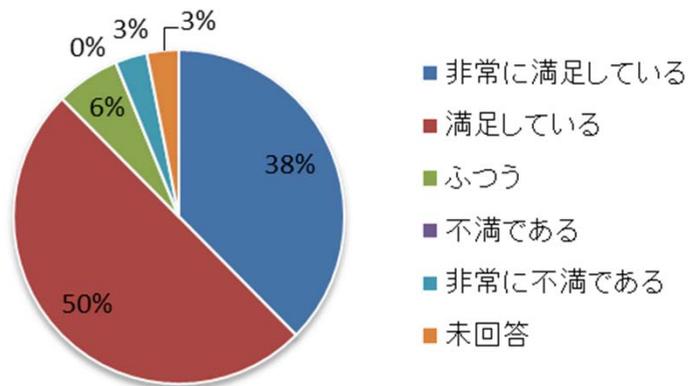
- 英語コースの質保証（外国人教員比率の増大，海外公募による任用，“トップスクール・セミナー”などアクティブラーニングの増大）、英語による専門科目の増加（400コマ）
- 留学生に対する日本語教育体制の充実、留学生サポート体制の強化（国費留学生の割当増加，短期留学生に対する奨学金支援、心理相談、就職活動サポートなど）
- G13大学との連携（情報共有，G13大学独自の海外留学フェア：8大学拠点・インド・シンガポール・韓国等），経団連との就職フォーラムなどの産学連携の取組
- 世界的な知名度上昇：海外有力大学との連携強化（大学間交流協定校の増大，大学院・学部での単位互換プログラムの拡充，送出し学生の増大，学生モビリティの向上，ダブルディグリーの実施：経営学研究科・政治経済学部，日本カナダコンソーシアム）
- 大学内での教職員の意識改革、学部・研究科間競争とガバナンス強化
- 産学連携での「留学促進共同プラットフォーム」開発と他大学への普及促進による日本の大学全体のインフラ整備への貢献

② 英語コースの学生からの評価(その1)

1. 明治大学の全般的な印象は？



2. 明治大学における授業内容・教育の質は？



中国(香港)

Tong Ho Yong, Bernieさん

国際日本学部 国際日本学科

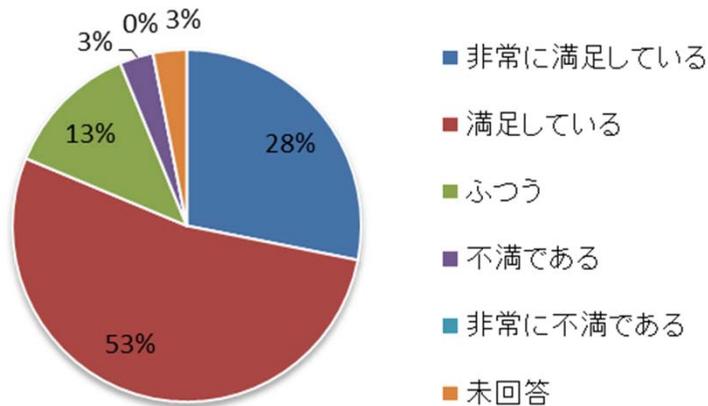
(2011年度4月入学)

香港では、しっかりと日本語を学べる高校が少なく、自分の日本語能力は十分ではなかったが、日本で日本語学校に通うことなく、直接、海外から入試を受けて入学することができたことは幸運だった。僕は小さい時から日本の野球が好きで、日本に住んで勉強することが夢だった。クラスでは、考え方が柔軟でフレンドリーな日本人学生が多く、自由にコミュニケーションを取り合うことができる。そのおかげで日本の文化をますます理解できるようになった。

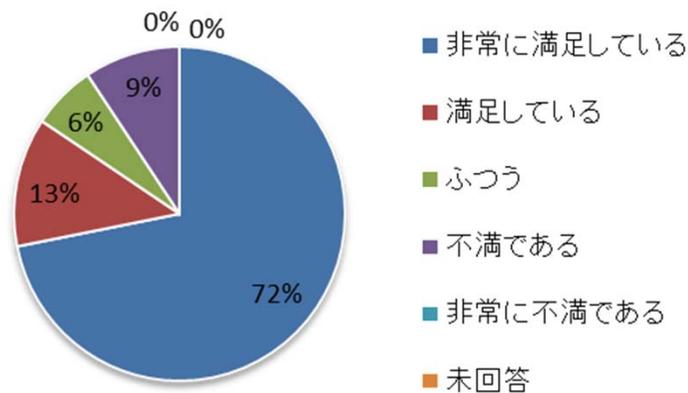
「アウェーをホームにしてくれる友人たちに恵まれました」

② 英語コースの学生からの評価(その2)

3. 授業で使われている英語の質と水準は？



4. 明治大学が提供するサポート体制は？



コンゴ民主共和国

Patrick M. Behuhuma

ガバナンス研究科 ガバナンス専攻

(2012年度4月入学)

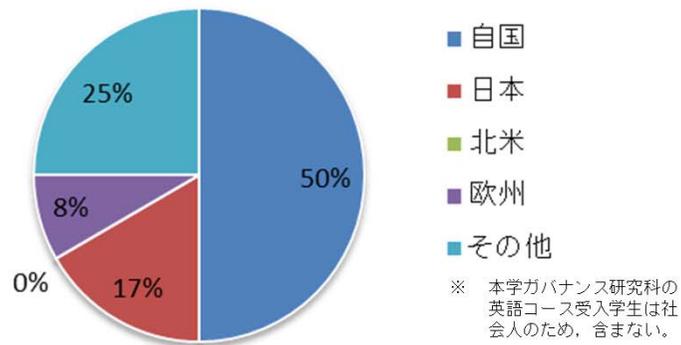
私はまったく日本語ができない状態で来日した。大学院在籍中に日本語学習に費やすことのできる時間が限られているので、英語で学べることにより、適応がスムーズであった。

科目選択の幅が広く、またどのクラスも少人数で質が高い。教員や級友と親しくコミュニケーションを取りながら、リラックスした雰囲気の中で、楽しく学ぶことができる。

将来はさらに研究を続けるために後期博士課程に進みたい。

② 英語コースの学生からの評価(その3)

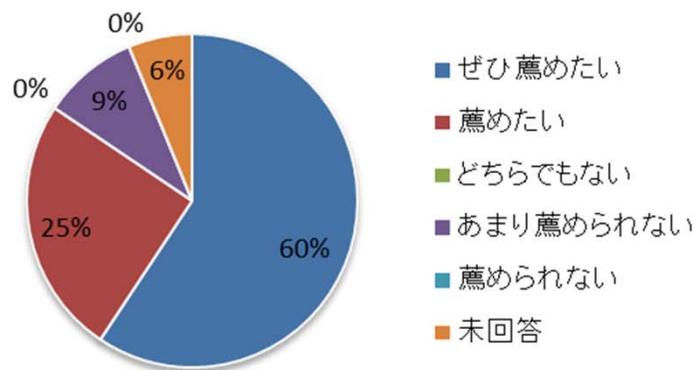
5. 卒業後、どこの国・地域に就職したい？



学生からの意見(良い点)

- 教職員が皆親切で適切にサポートしてくれる。
- 教室や図書館など施設がきれいで充実している。
- 専門科目のレベルが高く、充実している。
- さまざまな国から来た学生と出会うことができる。

6. 母国の学生に明治大学を薦めたい？

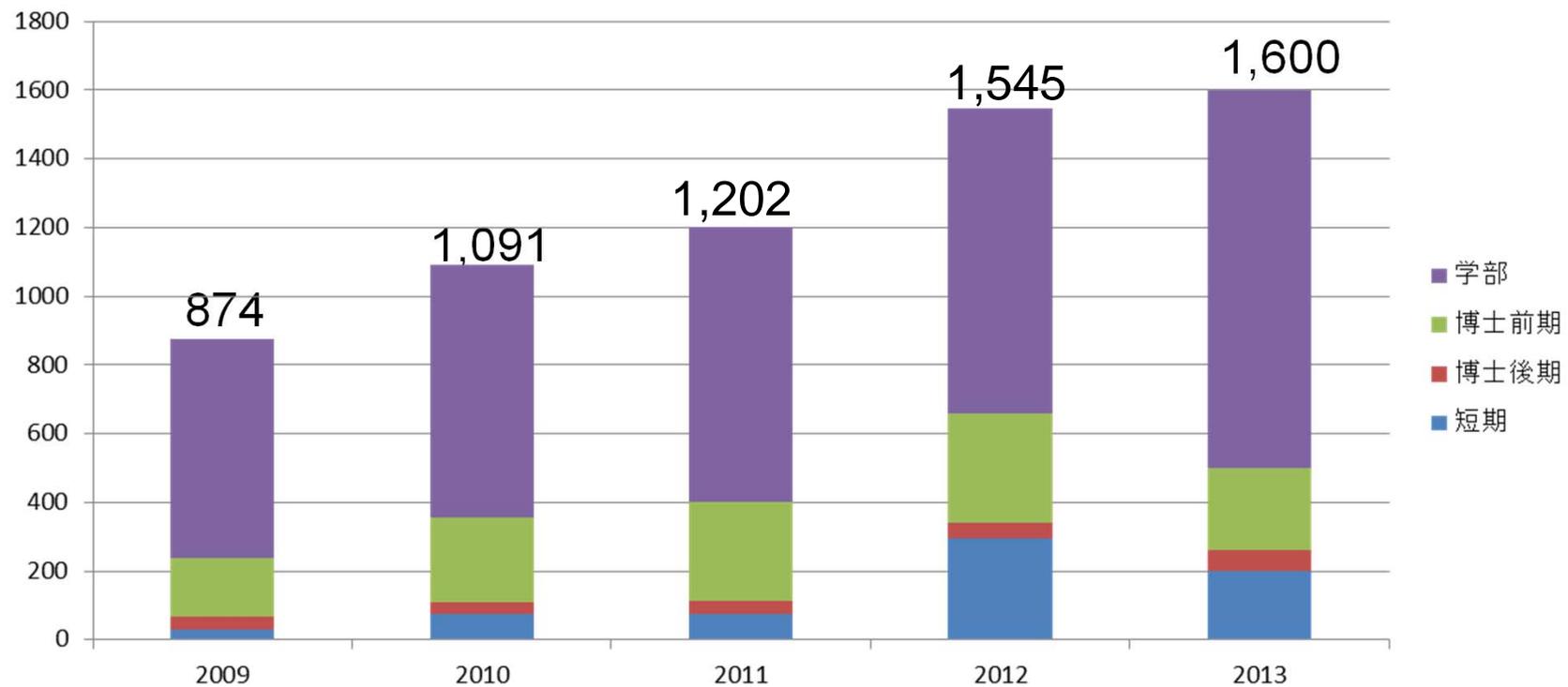


学生からの要望(今後の改善点)

- 授業科目の選択の幅を増やしてほしい。
- 事務局からの配布物の英語化をもっと進めてほしい。
- 日本人学生との交流の機会を増やしてほしい。
- 留学生寮をつくってほしい。

③ 留学生の受入

留学生数は、2009年度以降毎年着実に増加。



注1) 2009年度～2011年度は実績, 2012年度は予定数, 2013は目標数

注2) 各年度, 5/1在籍者を計上

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施

○留学生受入プログラム

海外の学生が、長期休暇を利用し、日本語、日本の法律、政治経済、ポップカルチャーなどを、体験学習と講義を組み合わせたカリキュラムにより学ぶことができる短期留学生受入プログラムを実施。

- 英語によるプログラム: Cool Japan Summer Program, Law in Japan Program
- 日本語によるプログラム: 夏期短期社会科学プログラム, 夏期・冬期日本語短期研修プログラム

○日本人学生の海外派遣プログラム

各学部・研究科独自のプログラム数の拡大により、派遣学生数は増加傾向。

ケンブリッジ大夏期法学研修, プレMBAプログラム(カナダ・ヨーク大), 米ノースイースタン大夏期留学プログラム, カリフォルニア大バークレー校サマーセッション, International Business Program (ポートランド州立大及びサンノゼ州立大), タイ・シーナカリンウィロート大夏期プログラム, 国際日本学部セメスター留学(オレゴン大, NY州立大ニューパルツ校, アラバマ大, インディアナ大・パーデュー大インディアナポリス校, フロリダ州立大, ディズニーワールド提携セメスター・インターンシップ留学プログラム), 短期語学研修プログラム(英語, 独語, 仏語, スペイン語, 中国語, 韓国語等)。平成24年度, SSSVに20プログラムが採択される。海外派遣学生数809名を予定。

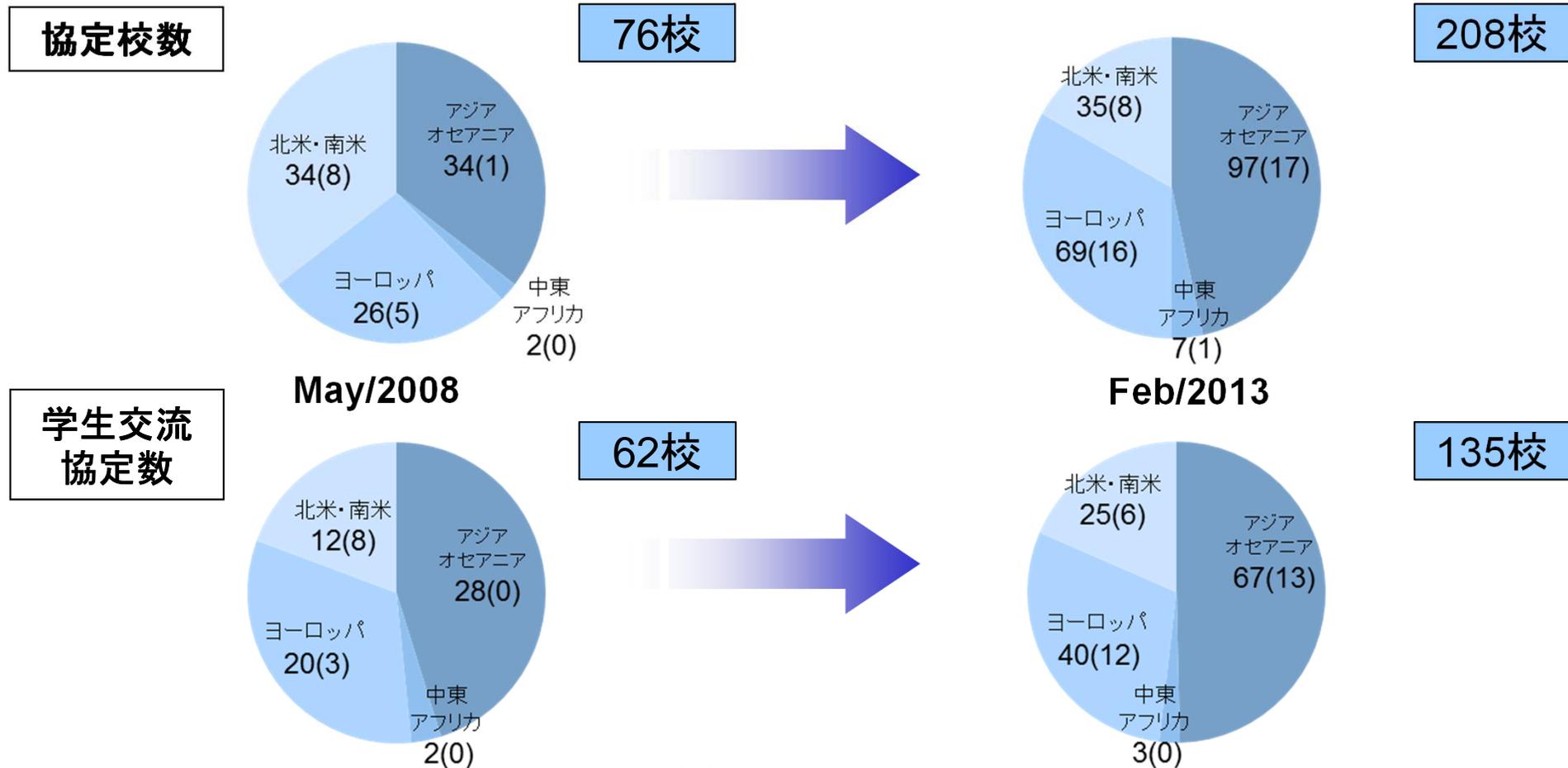
○大学間連携コンソーシアム

日加戦略的留学生交流促進プログラム(日本側11大学, カナダ側8大学)による学生交換プログラムを実施。

平成23年度は, 2012年2月に京都にて「日加学術連携フォーラム」を開催し, 日本側学生15名, カナダ側学生5名が参加。

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

【協定の締結数】

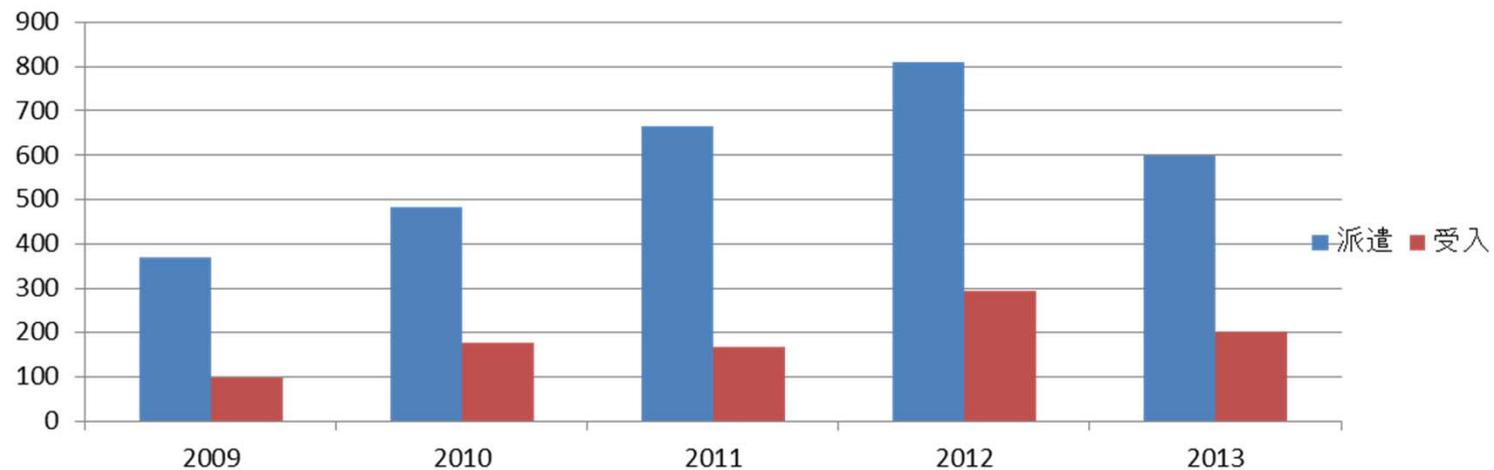


※下段, 学生交流協定数は上段の協定校数の内数。

⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

【協定等に基づく学生の受入・派遣】

- 派遣・受入ともに目標値を超えて増加。
- 大学間協定及び部局間協定の増加に伴い、交換学生数が漸増している。
- 短期プログラム（SSSV）数の増加と語学研修の増加により、派遣学生・受入学生数が増加。
- 協定に基づく学生交流のうち、送り出しに特化（一方通行型）プログラムの充実による派遣学生数増加。



⑥ 教育体制の充実

【外国人教員の雇用と教職員スタッフの充実】

・外国人教員比率の増加

外国人教員を積極的に任用し、英語による授業科目を充実。

H21	H22	H23	H24
6.3%	6.9%	7.0%	7.4%

・国際化のための専従による教職員スタッフの充実

	H21	H22	H23	H24
特任・客員教員	-	6	6	6
兼任講師	-	-	5	5
専任職員	11	19	21	21
嘱託・派遣	3	6	6	7
合 計	14	31	38	39

⑥ 教育体制の充実

【日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進と交流】

・海外出張数と海外大学との交流状況

年度	全出張回数	海外大学との交流	例
2008	631	82	<ul style="list-style-type: none"> ・明治大学・西シドニー大学法学夏期プログラム開発のためのワークショップ開催 ・オーストラリア国立大学公共政策大学院で集中授業実施 ・明治大学・UTM(マレーシア工科大学)研究交流会参加
2009	712	104	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院共同申請GP「Japan-Taiwan Joint Workshop for Graduate Students in Applied Mathematics」の実施 ・シェフィールド大学でのワークショップ参加 ・明治大学・ウィーン大学共同シンポジウム開催・参加
2010	873	168	<ul style="list-style-type: none"> ・ケンブリッジ大学での夏期法学研修開催 ・北京大学外国語学院でのクールジャパン講義実施 ・高麗大学との国際学術会議共同開催 ・UTMとのダブルディグリー交換授業実施・公務員セミナー実施
2011	922	159	<ul style="list-style-type: none"> ・ジーゲン大学、同徳女子大学との国際シンポジウム開催・参加 ・イエナ大学における日独修好150周年記念行事に参加 ・大学院GP文学研究科「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」高麗大学校プログラム実施

・国際学会参加渡航費助成数の推移

年度	2008	2009	2010	2011
国際学会参加渡航費助成数	94名	87名	115名	136名

・国際連携機構独自の招聘プログラム

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
長期招聘教員	1名	2名	0	0	1名
短期招聘教員	9名	6名	11名	11名	5名
アポイントメント・プログラム	2名	1名	4名	3名	2名
スタッフセミナー	9名	10名	7名	4名	5名
招聘研究員制度による受入	2名	5名	9名	6名	6名
国際学会・シンポジウム助成			4件	7件	6件

2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース

【英語コースの開設状況】

- 先端数理科学インスティテュート(MIMS Ph. D. プログラム)
- ガバナンス研究科ガバナンス専攻公共政策プログラム英語コース
- 経営学研究科経営学専攻ダブルディグリープログラム英語コース
- 国際日本学部イングリッシュトラック
- 理工学研究科建築学専攻建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース

(平成25年度開設予定)

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	在籍者数
MIMS Ph.D. Program	先端数理研究科	2009/4	D	5	25人
Graduate School of Governance Studies English Course Public Policy Program	ガバナンス研究科	2010/4	P	20	34人
Graduate School of Business Administration English Course in Double Degree Program	経営学研究科	2010/4	M	5	16人(8)
School of Global Japanese Studies English Course	国際日本学部	2011/4	B	15	21人
Graduate School of Science and Technology, International Professional Course	理工学研究科	2013/4	M	28	-

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース

【質の高い教育の提供と教育の質向上への取組】

➤ 優秀な外国人教員の招聘，国際的な教育研究活動実績のある日本人教員の採用

(1) 全学の教員任用方針に基づき，外国人教員の任用の推進，国際的な教育研究活動実績のある日本人教員の採用を制度的に行う。

(2) 優秀な外国人教員の招聘：トップスクールセミナー

海外の著名な大学から客員教員を採用して政治学，経済学，社会学等に関する集中講義を実施。

(3) 国際的な研究実績のある教員の雇用，招聘

研究知財機構，先端数理科学インスティテュート(MIMS)における外国人研究者受入，経営学研究科ダブルディグリープログラムにおける兼任教員採用，理工学研究科建築学専攻における国際的なワークショップ開催

➤ FD等の実施による教員の資質向上など教員体制の充実

(1) 教育開発・支援センターの設立

センターのもと，FD専門部会，国際教育プログラム部会，教員評価検討部会， Semester制度検討部会を設置し，FD活動新任教員研修会の実施，講演会やシンポジウムの実施，FD活動広報など，幅広くかつ組織的に行い，教育の質向上，成績評価の厳格化，点検評価を通じて，国際標準となりうるFD推進。

(2) 米国大学での英語による実践的教授法・教材作成ワークショップに参加

2009年度から，英語により講義を行う教員を米国大学における専門プログラムに派遣

政治経済学部とノースイースタン大学，南カリフォルニア大学(USC)と連携プログラムを実施。学生への英語での専門教育の拡充，日本人教員のFDを行う。

(3) 在外研究制度，国際学会への助成等，制度的な教員海外派遣

(4) 国際連携機構における招聘プログラム

(5) iTunes Uなどによるスキルの向上



② 留学生受入のための環境整備

【留学生に対する支援(就学, 生活, 経済, 就職等)】

- ・専門スタッフによるエントリーサポートの充実(入学願書受付, 在留資格管理, 宿舎手配及びオリエンテーション)
- ・留学生向けの宿舎確保(提携業者との契約及びホームステイプログラム)と交換留学生専用宿舎の借上げによる提供
- ・3つのキャンパスにおける国際交流ラウンジ運営とキャンパスメイトによる留学生交流の実践, 学習支援室とチューターによる学習指導体制
- ・国際連携機構教員による留学生を対象としたカウンセリング体制
- ・授業料減免措置(30%)の継続実施と大学独自の奨学金制度(第Ⅰ種・第Ⅱ種・第Ⅲ種)
- ・留学生に特化した企業見学会, 説明会・セミナーの開催, エントリーシートの添削指導及びビジネスマナー講座の実施。留学生を対象にした日常的な就職相談の実施。
- ・グローバル人材育成・グローバル採用を実施する企業との懇談・ワークショップ・講演会開催により, 留学生の企業・業界に対する認識を深化させるよう取り組む。

② 留学生受入のための環境整備

【日本語・日本文化の学習機会の提供】

- ・ 日本語未習のレベルから日本人学生と同等にディスカッションができるレベルまでを受け入れられる幅広い日本語授業を設置。特に、英語コース在籍者に対する入門レベルの日本語教育ではクラス数を増やすなど、より充実させて提供。
- ・ 日本語未習の学習者に対しては、日本語教育センターで開発した「日本語e-learningシステム」を提供してかな学習を支援。
- ・ 夏期と冬期に実施している日本語短期研修プログラムにおいて、短期受入れ留学生に対して1単位相当の日本語授業とフィールドプログラム(着物着付け体験, 茶道体験等)を提供。
- ・ 留学生バス見学旅行, 日本文化体験(国際教育センター), 東京フィールドプログラム(日本語教育センター)を実施して, 日本文化体験の機会を提供。留学生同士, また日本人学生との交流をはかる。

② 留学生受入のための環境整備

【海外拠点の設置と留学生の受入促進】

・ 北京サテライトオフィス設置

中国・北京においてJTB海外共同利用事務所の利用により本学サテライトオフィスを平成23年4月から運用開始。留学生数拡大に向け、現地高等学校、日本語教育や留学事情の調査を実施。

・ 留学促進共同プラットフォームの整備

留学生の海外からの出願の利便性を考慮したWeb出願システムの稼働を開始。平成23年度国際日本学部イングリッシュトラック出願からインターネット登録、受験料収納決済及び出願処理に利用。留学に関する情報を提供する日本留学ポータルサイトをリニューアル。また、英語版大学ホームページの拡充を図った。

・ 海外における日本留学フェアなどへの参加

受入重点国を中心に、留学生の獲得のため、海外において開催される日本留学フェア及び国際的な教育関係機関の年次総会等に参加(2カ年半で延52回参加)

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【大学全体としての国際化戦略】

明治大学は、グローバル30と国際連携の推進のため2020年度に留学生4000名の受け入れ、1500名の学生の海外送出しを目標にしている。この目標達成のため、

- 1) 2009年10月の国際連携機構の設置と学長をトップとした推進体制(ガバナンス強化)
 - 2) 「国際教育パートナーズ」による「留学促進共同プラットフォーム」の構築
 - 3) 海外拠点形成などを通じた戦略的な国際連携の推進
 - 4) 日本文化, 日本の技術, 社会システムなどの情報発信
 - 5) 内外の大学とのネットワーク化による教育と研究の推進
- を柱にし、「グローバルコモンプログラム」を完成させる。

大学院・学部での単位互換を拡充し、大学間交流協定校を250校に増やし、新たな教育連携プログラムや海外大学等のダブルディグリー・プログラムを開発して日本人学生を含む全学生のモビリティを高める。

一方、グローバル人材育成が社会的な課題となるなか、自律性, 協調性, 価値醸成, 英語力など、学生のグローバル人材としての資質を高めるため、学生の送出しも強化する。

これまでの「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」と、本年度文部科学省の採択を受けた「グローバル人材育成推進事業」と「大学の世界展開力強化事業」の3つを合わせた事業推進による相乗効果をもって大学の国際化を進めていく。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【大学間ネットワークの形成～国内大学との連携】

- ・ガバナンス研究科英語コースと国際大学大学院国際関係学研究科との間での単位互換覚書締結。遠隔授業・滞在型授業の実施。
- ・MIMS博士後期課程英語コース：広島大学，静岡大学，龍谷大学との共同研究プログラム。
- ・短期プログラムの他大留学生への開放
Cool Japan Summer Program, 日本語集中プログラム(夏期・冬期), 社会科学プログラム

【大学間ネットワークの形成～海外大学との連携】

- ・日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアム議長校(カナダ側10大学，日本側12大学)としての活動
- ・WC2 University Network (World Class Universities in World Cities)への参加

【産業界との連携】

- ・政治経済学部タイ協定大学を通じた在タイ日本企業との海外短期インターンシップの実施
- ・国際日本学部のフロリダ州立大学との協定によるディズニー社とのディズニー・ワールドインターンシップ実施
- ・経営学研究科ダブルディグリープログラムで来日するマレーシアUTM学生に対する短期インターンシップの実施
- ・短期プログラムでの企業研修(日本語夏期講座ホンダ，ロシア公務員講座イノベーション企業訪問など)。
- ・グローバル人材育成シンポジウムを核とする他大学参加型グローバル人材育成シンポジウムの開催(2011年3月，日本経済新聞社と共催。参加20大学，100社(見込み))
- ・学部間共通キャリア科目「国際キャリア特論Ⅱ」における企業数社との連携授業の実施
- ・米国大使館との共催によるシンポジウム開催(2011年2月・参加48大学43機関)。
- ・EU留学フェアの開催(2011年5月EUから40程度の大学参加。G13大学及び他大学学生に開放)



③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【事務体制の国際化】

- ・各学部・研究科において、留学生支援、英語プログラムコーディネートのための専従スタッフを採用、国際連携部では専任職員を増員。
- ・SDとして、初任者・OJT研修、職員海外研修を実施すると共に、平成21年度から大学内において「職員語学研修」(英語・中国語)を実施。(9種類の講座を開設。延べ340名参加。)
- ・専門性向上を目的に、国際連携機構主催により「国際スタッフ研修」「国際化のための教職協働にむけた研修」を実施。
- ・学生個人ポータルシステムであるWebシステム「Oh-o! Meiji System」及び同システムのシラバス・授業運営システムの検索・入力画面及び利用マニュアルの英語化を留学生及び教員双方について行った。また、同時にWeb履修登録システムについても授業科目検索・登録、シラバス参照、クラスチャット、教材提示、レポート提出成績参照等の同様の改修を行い、利便性を高めた。同時に、入学手続、学籍異動、図書館利用等の書類の英語化を図った。



③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【評価の実施・改善】

➤ 中間評価結果における指摘事項等への対応状況

－中間評価コメント(抜粋)－

「学長のリーダーシップのもとに国際化体制を強化・推進している。...平成22年度までの計画については、全体として目標を達成...平成25年度、32年度の目標は、挑戦的な目標を掲げているため、...その達成に向けて、より一層の努力と工夫が必要と思われる。...大学院の英語コースにおいて、特に英語を母語としない学生では英語力に差がある現状が見受けられたため、留学生への英語教育について体制をより一層強化する必要がある。

※1 大学院の英語コースで開設されている科目については日本人の履修者が少ないため、日本人との交流の機会を積極的に設けることが望まれる。※2」

【対応状況】

※1について＝留学生に対する英語能力強化の対応として、大学院及び専門職大学院では、研究科間共通科目を新設し、学術英語コミュニケーション及び英文学術論文研究方法論の授業を開設。これらの科目に加え、研究科独自に、1)英語論文チュートリアル実施、2)修士論文の英文添削、3)Speech, Presentation and Performance科目を設置している。

※2について＝ガバナンス研究科は、昼夜開講による専門職大学院であるため、一般学生の多くが職業人であることから、昼間に開設している英語コースの留学生との交流は難しい状況にあるものの、当研究科を修了している職業人との交流や、修了生が活躍する現場への訪問が行われている。実務家教員や実務家修了生を中心として留学生向けに各種研修機関へのフィールドワークや公共政策に係る現場を实地視察をし、地域行政の担当者や住民との情報交換を積極的に行っている。

③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成

【評価の実施・改善】

➤ 外部有識者等による評価の実施と改善

グローバル30の計画推進の補強・改善対応を図り、事業の実施状況及び目標の達成状況を専門的・客観的立場から評価を行うため、大学外部の有識者(6名)を招き、国際連携機構外部評価委員会を設置し実施。

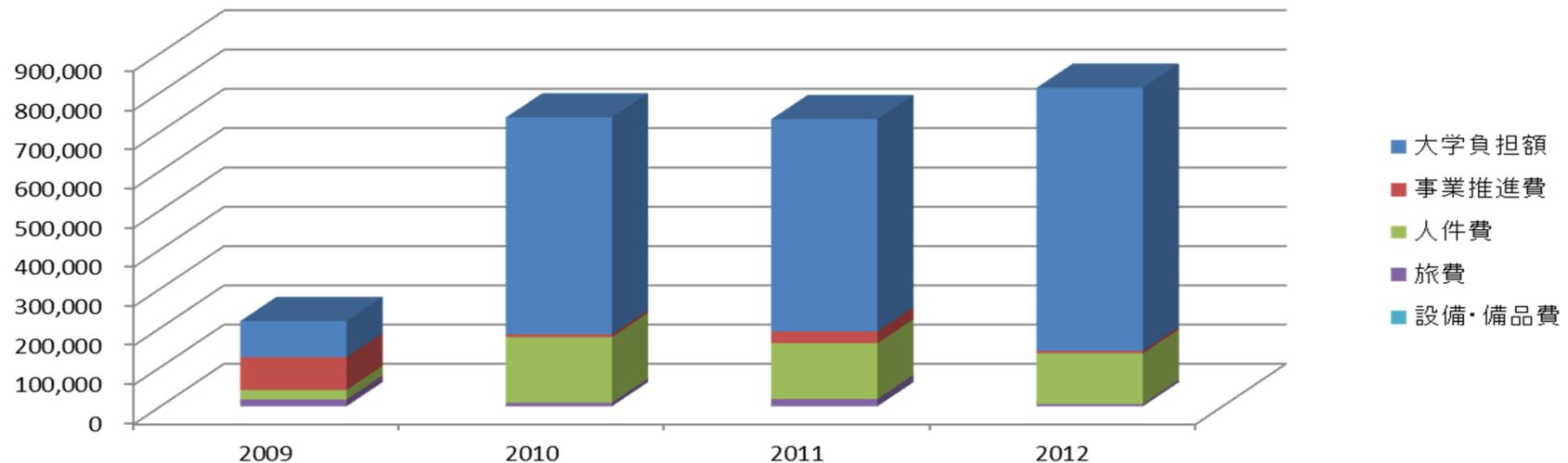
改革・改善の必要がある場合、国際連携機構会議のもとで検討され、各部局において実行に移される。更に、実施された改革・改善の適否についても、同会議で検証、PDCAサイクルを実践している。

国際化を含め本学の各組織における法人活動、教育・研究活動全般を自己点検・評価委員会のもとに毎年、点検・評価を毎年実施することにより、内部質保証に向けた取り組みを行ない、教育研究水準の維持・向上を図っている。

3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

➤ 大学全体としてグローバル30事業の推進を図るため、事業推進部局である国際連携機構に重点的な予算配分を行うほか、各学部・研究科にも予算計上している。活動経費の7割を自己資金により支出している。



注) 2009~2011年度は実績。2012は計画予算。

② 内部監査等の実施

➤ 補助金並びに補助金事業の適正な執行を図るため、内部監査を実施している。

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

① 今後の課題と展望

海外からより多くの優秀な学生を獲得するため、海外のレベルの高い高校や協定校などを通じた指定校推薦制度の充実を図る。また、留学生向けの各種奨学金制度の充実、宿舍の充実は勿論のこと、英語によるカウンセリングなど日本語能力の低い学生へのサービス及び日本語教育をより充実させる。グローバル人材育成の仕組み作りとして、産学連携のもと、企業と大学と外国人留学生の繋がりを強化させ、就職指導やインターンシップの充実等の就職支援を強化する。

② 事業終了後(2014～)の見通し

○英語コースの拡充

既設の学部1コース、研究科3コースに加え、2013年度に理工学研究科建築専攻国際プロフェSSIONALコースが中野新キャンパスにおいて開設される。国際日本学部イングリッシュトラックでは2013年度秋入学から編入学を開始する。大学院における社会科学、理工学の研究科横断的イングリッシュトラックの設置検討。

○留学生の受入促進

継続して目標達成(2020年度4000名)に向け、1)英語による授業の増加とレベルアップ、2)海外における広報体制・広報活動の充実とWeb出願システムとポータルサイトの運用、3)協定校ネットワークの強化、4)エントリーサポートの充実、5)短期プログラムの開発、を進める。

○補助金の終了に伴う代替財源の確保

事業終了年度に、計画通り体制を確立させ、評価点検により改めて事業執行・プログラム運営の適正化を図り、以後経常化による方針を立て、大学の安定的かつ継続的な資金計画の下に事業継続が行えるようにする。